

鈴木經勳（すずき けいこう）實業家。嘉永六年十一月十一日江戸生れ、昭和十二年十一月十一日没（八五三―一九六）。講章海、字子謙、幼名退介、三郎太郎。號南洋。昌平坂學問所で漢學を、横濱でフランス語を修めた。明治八年ノルウェイの定海船の水夫となり、北海、千島方面に出漁。次で外務省出仕、十七年南洋マーシャル群島の事件調査等に加はり、二十年まで回数度航海。二十二年田口卯吉の南洋行公務員兼書記として隨行、この間の見聞を『東京經濟雜誌』に寄稿した。二十五年名古屋の『扶桑新聞』主筆、日清戦役には従軍記者となり、のち實業に従事。

著書に『南洋探検實記』（明治二十五年七月十一日博文館、復刻版・昭和十七年六月）『南洋強日本協會』（『南島巡航記』（井上彦二郎共著、明治二十六年二月二十日經濟雜誌社。復刻版・昭和八年九月）『十日拓務省。増補復刊・十七年八月二十日大和書店）、『南洋風物誌』（昭和十九年十一月十五日日本講演協會）等。高山純著『南海の大探検家鈴木經勳―その虚像と実像』（平成七年一月二十八日二一書房）がある。

